
超俊足1番

林 晃佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超俊足1番

【Nコード】

N5154I

【作者名】

林 晃佑

【あらすじ】

中学時代陸上部だった、沢村大樹さわむらだいきが

高校に入り、野球部に入り、甲子園を目指す・・・

1、陸上を忘れる

沢村「オラアッ！」

バンッ

俺は今、なんのためにこいつらを殴っているんだろう・・・

「てめえ〜」

沢村「うるせえっ!!」

ひざ蹴りで相手を倒した

監督「待てっ！なんだこの有様は・・・沢村か？」

沢村「なんだよ！おめえは・・・ぶっ殺すぞ!!!!」

近くに置いてあったモップで陸上部の監督の後頭部を思いっきり叩いた

監督「ガアアッ！」

沢村「・・・フウ」

この騒ぎは、俺の中学校生活、最後の大会でケガして大会に出れなかった、それで暴れまくったら

この騒ぎになってしまった

これで俺はさつさと中学校を卒業した。

俺は陸上部で一番強い高校に呼ばれていたから高校の進学は問題ないが、この騒ぎで陸上部には

入れなくなった

そして、桜舞う四月、陸上、テニスは全国トップクラスの篠塚学院しのづかがくいん

略して、篠学で俺は何をすればいいのだろうか……？

なんとなーく入学式に行進して、気づいたら、放課後で、ぼんやりと陸上部のグラウンドを見ていた

言い忘れすぎていたが、俺の名は沢村大樹さわむらだいきである。

沢村（どうせ入れるわけが無いからな……）

俺はその場からさつさと失せてほかの場所へ行った

沢村「もう帰るか……」

ちよこちよこ回って歩いたら疲れてきたので帰ろうとした、すると・

沢村「ん……？野球か……、久しぶりに野球でもやるか……」

陸上部を辞めたものの部活に入っていないのはカッコ悪いと思って

いる俺は一応部活はやる

実を言えば、小学校の時、2年間だけ野球をやっていたのだ

沢村「失礼しまーす」

監督「誰だい？君は」

沢村「入部希望したいんですけど・・・」

監督「別構わないけど、今日はみんな帰っちゃったから、明日の練習の時来てくれよ」

沢村「ああ、はい・・・失礼しました・・・」

・・・

沢村「俺は野球部か・・・まあいいや」

？「どうした、少年よ！悩みなら私に話したまえエエエエエエ」

沢村「あ、遙か・・・あれ？同じ高校だったっけ？」

遙「あっ！ひどっ！」

沢村「はは・・・嘘だって」

こいつは宮川遥^{みやがわはるか}、幼稚園の頃からずっと同じ学校で

通称幼馴染である。

沢村「んで？なんか用？」

遥「おま・・・冷たっ！暗い顔してるから話しかけてやってるだけでしょ・・・陸上のこと？」

沢村「・・・ふざけんな！！！」

遥「な・・・なにマジ切れしてんの？」

沢村「俺はな、野球で天下を取るって決めたんだ・・・もう陸上なんてどーでもいいんだよ！」

遥「私だって、野球部のマネージャーで天下を取るって決めたのよ！」

・・・5秒くらいの沈黙が走る

遥「野球部？」

沢村「お前が？」

遥「まあ、いいや、今日は疲れたから帰るね・・・」

沢村「おお」

そうしてさっさと帰って行った・・・

管理人の気分でつづくかどうか決まります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5154i/>

超俊足1番

2010年10月15日18時59分発行